深町市民センター

住　　所　若松区深町一丁目2番12号
電話番号　771－6873
F　A　X　771－6435
館長名　宮本　均

なれて楽しもう「パソコン講座」

○ 地域の概要

深町校区は、高塔山から石峰山系の北側に位置し、丘陵地が多く傾斜地に住宅が多く存在する。

人口約８，８００人、世帯数約３，５００戸、古くからの住宅地で高齢化率約３０％、高齢化が著しい。（平成１７年国勢調査より）

地域活動は活発で、平成７年に市民福祉センターが設置される前から「まつり深町」や「敬老会」など四自治会が連携して大きな行事を行っている。

現在でも五つの部会が、年度計画を企画段階から連携調整し、１５回もの校区主要事業を行っている。

校区まちづくり協議会の活動は活発で地域住民に定着している。

○ 事業のねらい

パソコンの普及は目覚しく、会社など職場の事務処理には不可欠な機器になっている。

また、家庭においてもほぼ普及しているといえる。ところが、家にはパソコンがあるものの使いこなせない、手が出ないというのが中高年者の本音ではないだろうか。

独学で覚えようにも基礎知識がないため、取扱説明書は難解である。また、キーボード操作やパソコン用語も理解できず行き詰まってしまう。

その一方では「パソコンを使って子どもにメールをしたい」、「年賀状を作成したい」など欲求が存在する。

そこで、初心者向けに基礎から文書作成まで講座回数を増やし、時間をかければマスターできるものと考え、中高年層にスポットを当て、初心者向けパソコン講座を行った。

○ 事業の概要

『生涯学習市民講座』
「パソコン講座（初心者）」１０回及び
「パソコン講座（初級）」１０回

６月から３月まで１０ヶ月間、月２回合計２０回もの講座を実施。

パソコン持込者を当て込み、募集人員１０名。実際の応募者１７名
（修了者１４名）。

○ 事業（活動）の実際、内容

企画段階で講師と「対象者」、「講座の回数」、「謝礼金」、「講座の内容」、「募集人員」など内容を詰めて方針を立てた。

募集をかけたものの応募者がどれ位になるか心配だった。

初心者を対象にしたことや講習回数を

月２回、年度いっぱいまで実施することなど企画が功を奏したのか、心配をよそに校区外からも応募者があり、募集人員を大きく上回る１５人の募集があった。

講師１人では、１０人程度が限度であるということもあり、センター職員が常時２名サポートする体制を取った。

中途加入についても、講師の了承を得て受け入れた。中途加入者２名、脱会者３名で修了者１４名だった。

全くの初心者もいて、最初はマウスの使い方もままならない様子だった。

回数を重ねるごとに見違える程に上達した。

プロジェクターを使用した講師の丁寧な指導と、受講者の技量を推し量りながらの指導は、受講者に好評であった。

これに加え、センター職員２名のサポートにより、計画どおりカリキュラムを消化することができた。

また、受講者から落伍者が出ないようにセンター職員が補習希望者のみ１０数回補修を行った。

受講者全員が年賀状を出すまでになり、パソコンの面白さや自信もついたようだ。

年度末が近づくにつれ受講者からの継続意向が強まり、４月１日から修了者全員がクラブへ移行することになった。



『表の列・自動調整？』…な～るほど！！

○ 成果と課題

（成果）

・募集時２０回の講座数と講習内容を明確にしたこともあり、初心者の応募が多かった。

・初心者がパソコンになれ、余裕すら感じられる。

・ワードに限定、多機能を使った文書作成が出来るようになった。

・修了者１４名が、クラブを立ち上げ継続学習することになった。

・新たにパソコンを購入し、自宅学習する者もでた。

（課題）

・講師謝礼金に限界がある。

・講師のボランティア的働きが不可欠。

・多人数の場合、講師の補助者が必要。

・センター備え付けパソコンは、６台しかない。募集人員の決定に工夫がいる。

・受講者の習熟度に格差が出る。落伍者が出ないよう補習等の実施が望まれる。